

救急科

臨床研修期間(2年間)		専門医研修期間(標準3年間)					
病院名 (60病院)	医療圏	基幹施設名(22病院)	2次医療圏	地域群	基幹・連携施設名	2次医療圏	地域群
横浜労災病院	横浜	小田原市立病院	県西	A	神奈川県立足柄上病院	県西	A
昭和医科大学藤が丘病院					湘南鎌倉総合病院	横須賀・三浦	B
聖マリアンナ医科大学横浜西部病院					藤沢市民病院	湘南東部	B
横浜旭中央総合病院					秦野赤十字病院	湘南西部	B
菊名記念病院					東海大学医学部付属病院	湘南西部	B
汐田総合病院					横浜市立大学附属市民総合医療センター	横浜	C
昭和医科大学横浜市北部病院		北里大学病院	相模原	B	相模原病院	相模原	B
済生会横浜市東部病院					横浜市立大学附属病院	横浜	C
済生会横浜市南部病院					横浜旭中央総合病院	横浜	C
横浜南共済病院					横浜市立市民病院	横浜	C
横浜栄共済病院					横浜市立大学附属病院	横浜	C
横浜市立大学附属病院		横須賀共済病院	横須賀・三浦	B	横須賀市立総合医療センター	横須賀・三浦	B
横浜市立みなと赤十字病院					横浜市立大学附属市民総合医療センター	横浜	C
横浜市立大学附属市民総合医療センター		横須賀市立総合医療センター	横須賀・三浦	B	横浜市立大学附属病院	横浜	C
横浜中央病院					横須賀市立市民病院	横須賀・三浦	B
けいゆう病院					横浜市立大学附属病院	横浜	C
横浜医療センター					横浜医療センター	横浜	C
横浜市立市民病院					川崎市立多摩病院	川崎北部	C
国際親善総合病院	川崎北部	湘南鎌倉総合病院	横須賀・三浦	B	聖マリアンナ医科大学病院	川崎北部	C
戸塚共立第1病院					葉山ハートセンター	横須賀・三浦	B
東戸塚記念病院					藤沢市民病院	湘南東部	B
聖隷横浜病院					湘南藤沢徳洲会病院	湘南東部	B
帝京大学医学部附属溝口病院					湘南厚木病院	県央	B
聖マリアンナ医科大学病院					大和徳洲会病院	県央	B
川崎市立多摩病院					神奈川県立精神医療センター	横浜	C
新百合ヶ丘総合病院					聖マリアンナ医科大学病院	川崎北部	C
虎の門病院分院	川崎南部	藤沢市民病院	湘南東部	B	小田原市立病院	県西	A
関東労災病院					相模原協同病院	相模原	B
川崎市立川崎病院					藤沢湘南台病院	湘南東部	B
医療法人社団こうかん会日本鋼管病院					湘南藤沢徳洲会病院	湘南東部	B
川崎協同病院					茅ヶ崎市立病院	湘南東部	B
川崎市立井田病院					平塚市民病院	湘南西部	B
日本医科大学武蔵小杉病院					東海大学医学部付属病院	湘南西部	B
川崎幸病院					横浜市立大学附属市民総合医療センター	横浜	C
相模原病院	相模原	湘南藤沢徳洲会病院	湘南東部	B	湘南鎌倉総合病院	横須賀・三浦	B
北里大学病院					藤沢市民病院	湘南東部	B
相模原協同病院					湘南大磯病院	湘南西部	B
横須賀市立総合医療センター					大和徳洲会病院	県央	B
横須賀共済病院					海老名総合病院	県央	B
横須賀市立市民病院	横須賀・三浦	東海大学医学部付属病院	湘南西部	B	聖マリアンナ医科大学病院	川崎北部	C
湘南鎌倉総合病院					小田原市立病院	県西	A
大船中央病院					藤沢市民病院	湘南東部	B
藤沢市民病院					茅ヶ崎市立病院	湘南東部	B
湘南藤沢徳洲会病院					平塚市民病院	湘南西部	B
藤沢湘南台病院	湘南東部	平塚市民病院	湘南西部	B	国立病院機構神奈川病院	湘南西部	B
湘南東部総合病院					東名厚木病院	県央	B
茅ヶ崎市立病院					海老名総合病院	県央	B
平塚市民病院					横浜市立市民病院	横浜	C
平塚共済病院					聖マリアンナ医科大学病院	川崎北部	C
東海大学医学部付属病院	湘南西部	海老名総合病院	県央	B	藤沢市民病院	湘南東部	B
伊勢原協同病院					東海大学医学部付属病院	湘南西部	B
秦野赤十字病院					済生会横浜市東部病院	横浜	C
大和市立病院					横須賀市立総合医療センター	横浜	C
海老名総合病院					川崎市立川崎病院	川崎南部	C
厚木市立病院	県央	横浜労災病院	横浜	C	小田原市立病院	県西	A
東名厚木病院					湘南鎌倉総合病院	横須賀・三浦	B
湘南厚木病院					湘南藤沢徳洲会病院	湘南東部	B
小田原市立病院					東海大学医学部付属病院	湘南西部	B
山近記念総合病院					聖マリアンナ医科大学病院	川崎北部	C
神奈川県立足柄上病院	県西	済生会横浜市東部病院	横浜	C	横浜市立川崎病院	川崎南部	C
					横浜市立大学附属市民総合医療センター	横浜	C
					横浜市立大学附属病院	横浜	C
					横浜労災病院	横浜	C
					横須賀市立総合医療センター	横須賀・三浦	B
	神奈川県	横浜医務センター	横浜	C	横浜市立大学附属市民総合医療センター	横浜	C
					横浜市立大学附属病院	横浜	C
					横浜労災病院	横浜	C
					北里大学病院	相模原	B
					東海大学医学部付属病院	湘南西部	B
	神奈川県	横浜市立市民病院	横浜	C	横浜市立大学附属市民総合医療センター	横浜	C
					横浜南共済病院	横浜	C
					横浜市立大学附属病院	横浜	C
					聖マリアンナ医科大学病院	川崎北部	C
					湘南鎌倉総合病院	横須賀・三浦	B
	神奈川県	聖マリアンナ医科大学横浜西部病院	横浜	C	聖マリアンナ医科大学病院	川崎北部	C
					横浜市立みなと赤十字病院	横浜	C
					けいゆう病院	横浜	C
					聖隷横浜病院	横浜	C
					菊名記念病院	横浜	C
	神奈川県	横浜市立みなと赤十字病院	横浜	C	東戸塚記念病院	横浜	C
					横浜総合病院	横浜	C
					けいゆう病院	横浜	C
					横浜総合病院	横浜	C
					聖マリアンナ医科大学病院	川崎北部	C
	神奈川県	横浜市立大学附属市民総合医療センター	横浜	C	小田原市立病院	県西	A
					横須賀共済病院	横須賀・三浦	B
					横須賀市立総合医療センター	横須賀・三浦	B
					藤沢湘南台病院	湘南東部	B
					藤沢市民病院	湘南東部	B
	神奈川県	横浜市立大学附属市民総合医療センター	横浜	C	平塚市民病院	湘南西部	B
					済生会横浜市東部病院	横浜	C
					横浜南共済病院	横浜	C
					横浜共済病院	横浜	C
					横浜共済病院	横浜	C

臨床研修期間(2年間)	
病院名 (60病院)	医療圏

専門医研修期間(標準3年間)					
基幹施設名(22病院)	2次医療圏	地域群	基幹・連携施設名	2次医療圏	地域群
			横浜市立大学附属病院	横浜	C
			済生会横浜市南部病院	横浜	C
			国際親善総合病院	横浜	C
			横浜市立市民病院	横浜	C
			横浜医療センター	横浜	C
横浜市立大学附属病院	横浜	C	北里大学病院	相模原	B
			横須賀共済病院	横須賀・三浦	B
			横須賀市立総合医療センター	横須賀・三浦	B
			横浜市立大学附属市民総合医療センター	横浜	C
			横浜市立市民病院	横浜	C
			横浜医療センター	横浜	C
聖マリアンナ医科大学病院	川崎北部	C	横須賀市立総合医療センター	横須賀・三浦	B
			湘南鎌倉総合病院	横須賀・三浦	B
			湘南藤沢徳洲会病院	湘南東部	B
			東海大学医学部付属病院	湘南西部	B
			海老名総合病院	県央	B
			横浜市立市民病院	横浜	C
			横浜市立みなと赤十字病院	横浜	C
			済生会横浜市東部病院	横浜	C
			聖隷横浜病院	横浜	C
			聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院	横浜	C
			川崎市立多摩病院	川崎北部	C
			麻生総合病院	川崎北部	C
			麻生総合病院	川崎北部	C
			日本医科大学武蔵小杉病院	川崎南部	C
			川崎市立川崎病院	川崎南部	C
			川崎幸病院	川崎南部	C
新百合ヶ丘総合病院	川崎北部	C	平塚共済病院	湘南西部	B
			菊名記念病院	横浜	C
			横浜栄共済病院	横浜	C
			横浜総合病院	横浜	C
川崎市立川崎病院	川崎南部	C	平塚市民病院	湘南西部	B
			聖マリアンナ医科大学病院	川崎北部	C
			川崎市立井田病院	川崎南部	C
			日本医科大学武蔵小杉病院	川崎南部	C
日本医科大学武蔵小杉病院	川崎南部	C	聖マリアンナ医科大学病院	川崎北部	C
			川崎市立川崎病院	川崎南部	C
			川崎幸病院	川崎南部	C
			関東労災病院	川崎南部	C

地域実践標準4年(専門研修を希望しない場合は7年間)					
医療圏2	地域群	医療機関名	病床数	受入希望理由(病院説明事項)	キャリア形成に係るメリット(病院説明事項)
県西	A	小田原市立病院	417	当院は、県西地域の基幹病院として、28の診療科を備え、急性期、高度医療や救急医療を担うとともに、地域周産期母子医療センターとして小児、周産期救急、また、脳神経疾患、整形外科疾患、外科疾患などあらゆる分野の急性期疾患に対応しています。 また、当院循環器センターでは急性冠症候群や心不全、不整脈などの心臓疾患全般だけでなく、全身の血管に関わる診断、治療を積極的に行っております。 全国的な医師不足の中、当院でも医師の招聘に苦慮しており、今後も県西地域の基幹病院としての役割を担っていくためには一人でも多くの医師を必要としていることから神奈川県「地域枠医師」の受け入れを希望するものです。	当院は地域の基幹病院として非常に幅広い症例を扱っています。また、病棟連携や病診連携、診療科間の連携が密であり、「顔の見える関係」で働ける強みがあります。 当院で地域枠医師に勤務いただき地域医療に貢献していただくとともに、当院に勤務する多くの若手医師と互いに切磋琢磨しながら一人でも多くの医師が地域医療に従事してもらえることを期待しています。 また、当院は、多くの診療科の指定研修施設として認定を受けており、地域の基幹病院の立場から非常に幅広い症例を扱っているため、多くの若手医師を積極的に受け入れて地域医療に貢献できる医師の育成に力を入れているとともに、ダビンチや遠隔医療システムなど、先進的な医療機器の導入も積極的に行っています。
県西	A	神奈川県立足柄上病院	296	県西医療圏でも高齢化・人口減少が進んでいるが、医療需要は幅広くあり、特に救急医療の維持には人員が必要であるため。	足柄上病院は、新専門医制度における内科と総合診療科の基幹施設であり、generalな力を持った指導医も在籍している。
相模原	B	北里大学病院	1135	○神奈川県救急医はまだまだ少なく、特に県央・県北地域は少ない。救急医療の発展のため、地域枠での救急医養成は必要である。(救命救急センター)	○当院救命救急・災害医療センターは、神奈川県央・県北地域の救急医療の中心として、メディカルコントロールを全て行い、最後の砦としての役割を担っている。病院前のドクターカー活動から救急外来での救急初療、手術を中心とした救命根本治療、集中治療管理まで全てを当センターで行っている。(救命救急センター)
相模原	B	神奈川県厚生農業協同組合連合会 相模原協同病院	400	・救急車受入年間8000件以上、地域医療支援病院の指定も受けており、紹介患者の受入も積極的に行っております。そのため、手術件数が多い一方で麻酔科医の人員は十全ではなく、受入を希望します。 ・相模原市内には内科二次・外科二次に対応できる病院が少なく、当院で一括した受入を可能にするため、総合内科・救急科にて対応をとっておりますが総合内科医師の人員が充たできていないため、受入を希望します。	研修プログラムについて、適宜見直しを行いながら充実を図っている。また、指導面については、病院全体協力で行うこととしており、特に該当科の指導医については、十分な指導を行うよう病院長より通達をしている。
相模原	B	独立行政法人 国立病院機構 相模原病院	458	当院の目標の一つは『救急患者の要請は受け入れていくことを原則とし、断らない医療を目指し地域医療に貢献していく』であり、救急医療を中心に地域に根ざした医療を行っている当院と地域枠の目的である地域医療に貢献する医師の育成に合致しているため受け入れを希望した。	【救急科】当院は救急医療において相模原医療圏、および県央の2次救急医療の中心的な立場となっている。救急科は2017年に発足したが、発足以前の年間救急車受け入れ台数は3000-4000台であったが、現在では5年連続年間救急車受け入れ台数は5000台を超え、直近の2年は6196台(2022年度)、6203台(2023年度)の救急車を受け入れている。相模原市内で年間に35890台(2023年)のうち当院は15.3%を受け入れている実績があり、年間に5000台以上の救急車を受け入れている病院は相模原市内では相模原協同病院と当院の2病院だけである。そのほかの病院は2000台を超えた病院が1病院のみで他は1000台代である。地域枠の目的である地域医療に貢献する医師を育成するにあたり、当院は適切な医療機関と思われる。
横須賀・三浦	B	横須賀市立総合医療センター	450	症例が豊富であり、指導医も多数在籍していることから、地域枠医師の修練に適切であるため、受け入れを希望いたします。	三浦半島80万人医療圏の中の中核的な病院です。救急車台数も年間約6000台であり、2次、3次に特化した総合病院であるため、症例が豊富であり、それを支える指導医も豊富です。派遣された医師が臨床・研究・教育の能力を発揮し、充実した仕事ができ、社会に役立てるように配慮していきます。
横須賀・三浦	B	国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院	740	教育体制が整っている。 未来に向けてたかいレベルの医師を育てたいと思っています。	救急科・救命救急センターの救急搬送受入人数が全国3位(2023年度)の実績であり、様々な救急疾患を経験できる。また3次救急症例は初期対応から集中治療管理まで一連の流れで研修できる。
横須賀・三浦	B	医療法人徳洲会 湘南鎌倉総合病院	669	神奈川県医療を継続して担う人材を確保・育成したい。	超急性期病院として24時間、365日すべての救急車収容要請を受け入れるを実践しており、豊富な臨床経験を積むことが出来ます。現在当院では、がん診療はもとより、世界的に新しいカテーテル、ロボット手術、心臓手術、内視鏡的外科手術、トモセラピー・陽子線といった高精度放射線治療、さらには臓器移植、再生医療など次世代の新しい治療を提供できる病院として運営しております。
湘南東部	B	一般財団法人同友会 藤沢湘南台病院	330	地域医療へ質の高い医療の提供を継続して行い、若手医師を育成して神奈川県を安心安全に貢献する為。	手技検査など指導のもと、専攻医には主治医として多くの経験と治療計画の決定を頂きます。コンサルタントがしやすい環境でありますので、医師、看護師、医療技術者との連携がスムーズに行えます。
湘南東部	B	医療法人徳洲会 湘南藤沢徳洲会病院	419	神奈川県湘南東部地域の地域医療を支える当院救急や感染症チーム、およびそのバックアップとしての臨床はもちろん、県下での臨床教育に意欲のある若手医師の採用を積極的に行いたい。層の厚い当院の屋根瓦式教育は、次世代の地域医療を担っていく若手～中堅医師のニーズに沿った良質な研修/指導環境が提供できていると自負している。	当院では日常遭遇する疾病と障害等に対して適切な初期対応と必要に応じた継続的な診療を全人的に提供するとともに、地域のニーズを踏まえた疾病の予防、介護、看とりなど保健・医療・介護・福祉活動に取り組み絶えざる自己研鑽を重ねながら、地域で生活する医師を生かす人々の命と健康に関わる幅広い問題について適切に対応する医師を育成します。また辻堂駅すぐの立地で、敷地内には職員専用の保育園があります。
湘南東部	B	茅ヶ崎市立病院	401	—	—
湘南西部	B	東海大学医学部付属病院	804	本院が属する神奈川県西部地域は県内でも相対的に医師不足地域であり、将来に渡り、地域医療に貢献する医師の育成と確保を図るため。	特定機能病院として高度医療を提供すると共に、神奈川県ドクターヘリを運用する高度救命救急センターを併設しています。また、総合周産期母子医療センターや造血幹細胞移植地域拠点病院、地域がん診療連携拠点病院として、専門的治療を行っています。
湘南西部	B	平塚市民病院	416	当院の救急車搬送患者数は10,060人(令和6年度)であり、全国的に見ても上位に入る多さであるが、一部の診療科では医師不足の状況が深刻化しており、「地域医療支援病院」として地域のニーズに応える医療を展開する中で、今後も引き続き安定して患者を受け入れるためにも、ぜひ医師の派遣を要望します。	当院は29診療科のもと、各科症例数も多いので、さまざまなスキルを積むことができ、幅広い科目で専門医の資格を取得することもできます。湘南地域で地域密着型の医療を提供する自治体病院の一員として、共に活躍していただける先生をお待ちしています。
湘南西部	B	国家公務員共済組合連合会 平塚共済病院	421	—	—

地域実践標準4年(専門研修を希望しない場合は7年間)					
医療圏2	地域群	医療機関名	病床数	受入希望理由(病院説明事項)	キャリア形成に係るメリット(病院説明事項)
湘南西部	B	秦野赤十字病院	308	医師偏在による定員医師不足のため受入を希望する。	当院は、秦野市の中核病院として救急医療や消化器病センターに尽力しています。また、がん診療にロボット支援手術も取り入れると共に、心血管疾患(急性冠症候群、脳卒中)に対する高度治療も尽力しております。なお、地域医療支援病院として、実地医家との地域連携を図ると共に、大規模災害時には、赤十字病院として災害救護の役割を果たしております。
湘南西部	B	伊勢原協同病院	350	—	三次救急の大学病院が近くにあり、当院では各医師の専門性を重んじつつも良好なチーム医療により総合的な力を発揮し、二次医療を行っております。ほぼすべての診療科に指導医がおります。
県央	B	社会医療法人社団 三思会 東名厚木病院	282	地域医療支援病院として、年間およそ5000台程度の救急車を受け入れ、救急診療とし地域に貢献しておりますが、その受け入れ窓口となる、内科医・救急医・外科医・脳外科医・総合診療医の採用に苦慮しており、在職医師の負担が増えている現状があるため、これらの診療科の協力を得たい。	様々な疾患の患者さんの診療を行っていただきますので、先生方の経験にも繋がると思います。脳外科・循環器科などのほとんどの診療科で必要であれば直ぐに来院できるオンコール体制が整っています。また、チーム医療としてコメディカルとの連携も取れており、働きやすい職場であると思います。
県央	B	社会医療法人ジャパンメディカルライオンズ 海老名総合病院	479	当院は、昭和58年地域の皆様に誘致頂く形で海老名市に開院致しました。これまで神奈川県県央地域の中核的医療機関として地域に医療提供を行って参りました。従来以上に医療を通じた地域貢献を果たしていく為にも受入を希望しております。	当院は、神奈川県海老名市に加え、座間市、綾瀬市を含む県央地域約34万人の診療圏を有する急性期中核病院です。平成29年には県央地域初の救命救急センターを開設し、更なる高度急性期医療を提供できるよう日々取り組んでおります。各診療科において専門性の高い医師が多く在籍しておりますので、数多くの様々な症例を積み重ねることが可能です。
県央	B	社会医療法人ジャパンメディカルライオンズ 座間総合病院	352	当院は、座間市の「救急医療の立て直し」という使命の下、市内で3施設目の2次救急病院として平成28年4月にオープン致しました。若い先生方と共に、更なる救急医療の強化を図り、地域貢献して参りたいと考えております。	当院は、グループ施設の海老名総合病院の臨床研修医の受入も行っており、研修医からは「一医師として診療にあたることができ、やりがいを感じる」とどの科においてもその様な感想を得ております。経験に關係なく、先生方の力を遺憾なく発揮頂ける環境を整えております。
県央	B	厚木市立病院	347	救急科:常勤医師の高齢化に伴い、新たな常勤医師の確保が急務であるため。	当院は県央地区の公立の基幹病院として、地域の医療機関との連携を推進するとともに、急性期を中心とした二次医療の提供や、専門性に基づく高度医療の強化に努めています。(地域医療支援病院、感染症指定医療機関、県災害拠点病院、難病医療支援病院、エイズ治療拠点病院、がん診療連携指定病院)
県央	B	医療法人社団 福寿会 愛川北部病院	150	公共交通機関から離れた地域での地域医療を理解し協力していただきたい。	愛川町唯一の病院として、一般病棟、地域包括ケア病棟、療養病棟がある。訪問診療、訪問看護ステーション、訪問リハビリテーションも運営しており、地域医療全体を学ぶには有益である。
横浜	C	独立行政法人労働者健康安全機構 横浜労災病院	650	医師数が欠員となっている診療科があるとともに、患者数の増加に診療が追いつかなくなっているため。	多くの診療科が整備されており、研修医プログラムも充実している。診療科間の研修医交流が可能。
横浜	C	汐田総合病院	324	当院の診療圏(横浜市鶴見区)の人口が高齢者も含め増加しており、今後更なる医療需要を有する地域であるため。	・地域に根ざした病院として、急性期・救急機能を備えながらも、回復期病床を充実させ、地域住民の健康を守ります。 ・無差別・平等の地域包括ケアの拠点として、近隣の医療機関・施設と連携し、地域住民とともに歩んでいます。
横浜	C	昭和医科大学藤が丘病院	584	当院は1975年の開院から40年以上が経過し、耐震化や医療の高度化に向けて再整備計画をすすめています。再整備にあたっては、2018年10月に昭和大学、横浜市、東急電鉄の三者で「藤が丘駅周辺の新たなまちづくりの推進に関する協定」を締結し、駅前施設・公園・病院が一体となったまちづくりに取り組むことになりました。そのような状況下で今後ますます当院に対する期待が高まることが予想され、その期待に応えるためにもより多くの優れた医師を養成したいと考えているからです。	当院は大学附属病院としての高度な医療水準を保ちつつ、急性期医療から難病、リハビリテーションまで様々な疾患を多数診療しています。そのため多彩な症例を数多く経験することができます。大学病院でありながらも各診療科間・各部門間の垣根が低く、コミュニケーションがとりやすい環境の中で患者さん中心のチーム医療を実践しています。
横浜	C	済生会横浜市東部病院	562	—	—
横浜	C	横浜市立大学附属市民総合医療センター	655	—	—
横浜	C	横浜市立市民病院	650	2020年5月に新病院が開院するにあたり、多くの診療科で医師の増員を希望しています。また、地域枠の先生は定着率が高いと伺っており当院で意欲的に勤務していただけることを期待しています。	当院は横浜市の基幹施設として急性期医療に積極的に取り組むとともに、救命救急センター、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、第一種感染症指定医療機関、国の地域周産期母子医療センター、そして2019年4月からはがんゲノム医療連携病院に指定されているなど、日常よく遭遇するcommon diseaseから高度な医療を必要とする重症患者や難治性疾患まで十分な経験を積み重ねることができます。また各分野の専門医にコンサルテーションができ、直接の指導を受けることが出来ます。2020年5月には新病院が開院しますので、やる気のある先生方をお待ちしています。ぜひ一緒に新病院で頑張りましょう。
横浜	C	社会福祉法人 聖隷福祉事業団 聖隷横浜病院	367	・地域枠医師を受け入れるための条件に合致する医療機関であるため ・当院は地域に根差した診療を行っており、地域医療を担う医師の育成という本取り組みの趣旨に合致するため	●内科・救急 → 救急患者やWalk inの患者など地域の患者さまを積極的に受け入れています
横浜	C	公立大学法人 横浜市立大学附属病院	671	—	女性医師支援をはじめ、働きやすい環境づくりのための各診療科会議の運用や各種制度の周知などを行っています。
横浜	C	国家公務員共済組合連合会 横浜南共済病院	565	救急車搬送台数も増加している中で人員不足であり、より安定した医療を行うためにもより多くの人数のスタッフの配置が必要のため。	ER診療に対しての教育を重点的に行っており、重症疾患からマイナー疾患まで幅広い診療が経験できます。
横浜	C	横浜市立みなと赤十字病院	624	—	—

地域実践標準4年（専門研修を希望しない場合は7年間）					
医療圏2	地域群	医療機関名	病床数	受入希望理由(病院説明事項)	キャリア形成に係るメリット(病院説明事項)
横浜	C	横浜掖済会病院	151	当院は、2024年に移転新築を計画しており、より一層地域社会の一員として地域の医療に責任を持つ医療機関としての役割を自覚し、今後さらなる医療提供体制の充実を目指している為、地域枠医師の受入れを積極的に行います。	当院は1896年(明治29年)創立の歴史のある病院です。元来は船員の方の為の病院でしたが、現在は地域の住民の皆様の医療の充実及び健康の増進に尽力し、社会福祉面でも貢献しています。これからの、地域包括ケアシステム(医療と介護の連携)に積極的に取り組んでいます。 特に消化器内科・血液内科・呼吸器内科及び消化器外科志望の医師が最適である。
横浜	C	社会福祉法人恩賜財団済生会支部神奈川県済生会横浜市南部病院	500	当院は横浜市大関連施設であるため、専門研修ローテーションを含め、医師の赴任離任は大学人事に依り行われているためです。	当院は指導体制も含め各診療科は横浜市大各教室と連携を密にしております。このことからとくに、指導医が複数の診療科ではサブスペシャリティの指導体制も充実しております。
横浜	C	医療法人裕徳会 よこはま港南台地域包括ケア病院	120	外来・入院・訪問の各診療への医師人材活用と育成を通じた地域医療への貢献	開院来50年に向かう港南台病院とともに、地域に密着した切れ目のない医療を提供しています。法人内に急性期病院、介護老健、有老ホーム、グループホーム、訪看ステーションを有しており、訪問診療も積極的に行っております。法人内外での連携を通じ、患者・家族に寄り添った医療を提供しております。
川崎北部	C	聖マリアンナ医科大学病院	955	救急医学:神奈川県内での教育研修に力を入れています。	救急医学:救急指導医が多く、症例が豊富にあること
川崎北部	C	医療法人社団三成会 新百合ヶ丘総合病院	563	希望する診療科それぞれにおいて人員体制を強化し、診療体制を充実させ、その中で若手医師を育成し、神奈川県の地域医療に貢献したいと考えています。	「地域医療への貢献」、「高度先端医療の実践」、「最良の安心を得られる医療」を目標に掲げ、救急患者を積極的に受け入れており、様々な救急疾患に対応できる能力を養うことができます。また最先端の医療機器を備え、高度な先進医療や予防医学を実践し、がん診療にも貢献しています。常勤医師220名超体制のもと、研修体制が充実しており、働き方改革に沿った勤務ができます。
川崎北部	C	川崎市立多摩病院	376	当院は地域中核病院として、地域住民の健康を支えるとともに、将来の地域医療を担う医師の育成に貢献することを重要な使命と考えております。地域枠医師の受入れを通じて、診療体制の強化とともに、地域医療の継続性を確保し、安定的な医療提供体制の構築を図るため、受入れを希望します。	—
川崎南部	C	日本医科大学 武蔵小杉病院	372	神奈川県内の救急医はまだ不足しています。 当院救命救急センターでは現在7名の救急医が川崎市中部地区中心に年間1,200例の3次救急の重症患者に対応していますが、増員できれば2次救急含めさらに救急患者を受け入れることが可能となります。 また今般の働き方改革に順応した勤務体制を構築する必要には人員の確保が必要ですが、現在の人員体制では時間外を中心に救急体制の維持が困難となることが予想されます。川崎市の救急医療体制維持のためにも地域枠医師の受け入れを希望します。	当院は救急科専攻医プログラムの基幹施設として、救急科専属医7名のうち救急科専門医6名、救急科指導医4名と十分な指導体制と、年間受け入れ救急症例 3次救急1200例、2次救急3500例と豊富な症例により、救急専門医資格を取得するうえで十分な臨床経験を積むことができます。さらに連携施設である日本医科大学高度救命救急センターをはじめ、ドクターヘリを擁する日本医科大学千葉北総病院など合計11の連携研修施設での研修も可能です。 また当院はドクターカーによる病院前医療やDMAT(日本DMAT、神奈川DMAT、川崎DMAT)等による災害医療にも積極的に取り組んでいます。病院としては大学附属病院として高い治療水準としっかりした教育体制を有しており、各科の救急疾患も十分経験することができます。 詳細は以下のプログラムをご覧ください。 救急医を志す先生は是非私たち日本医科大学武蔵小杉病院救命救急科と一緒に働きましょう。お待ちしております！ https://nms-kosugi-eccm.com/wp-content/uploads/2022/05/MKG専門医プログラム.pdf
川崎南部	C	関東労災病院	610	救急集中治療科のマンパワーが不足しており、当院において実践的な研修が可能であるため。	当院は中原区の地域医療支援病院として、年間約7,500台の救急車を受け入れ、軽症～中等症を中心とした二次救急を担っています。三次救急ではないため、救急専門医でなくとも対応可能であり、初期診療能力を磨くには最適な環境です。一般救急を体系的に学びたい方にとって、非常に実践的な研修が可能です。
川崎南部	C	日本鋼管病院	395	診療体制強化のため。 地域に根付いた、長く勤務いただける医師を確保するため。	当院は開設以来80数年間に渡り川崎市川崎区で地域に根ざした運営を続けている。 急性期と地域包括ケア病棟からなる二次救急病院です。 内科は後期研修プログラムを有し、専門医を目指す医師が切磋琢磨しています。